

Olympic
Movement

<平成27年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

川越市立霞ヶ関西中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 協 力** : 公益財団法人 JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成27年4月～平成28年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 30校程度
- 地 域** : 関東近郊及びJOCパートナー都市の中学校を基本とする
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場した経験等を通して、国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を自身の体験をもとに分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に生かせるような学習内容

座学の時間

挨拶（5分）

自己紹介（5分）

オリンピックの話（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



座学での学習内容の
確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験
に基づく「オリンピックの
価値」等について話す



グループ（個人）ワーク
発表も行う



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成27年10月20日 (火)
- 場 所 : 川越市立霞ヶ関西中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (39名)
- オリンピック : 長岡 千里 先生 (ボブスレー)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認 等



・ボブスレー競技についての説明を交えて自己紹介。運動の時間では楽しみながらオリンピズムを感じて欲しいと授業の目的を伝える。

2. 準備体操 等



・長岡先生を先頭に体育館を2周ランニングした後、両手間隔に広がってストレッチを実施。



3. 主運動 等



- ・6班に分かれて八の字跳びを実施。90秒間に跳べた回数を競う。全3回戦実施。
- ・全員で大縄跳びを実施したが、1回も跳べずに失敗。生徒からもう1度跳びたいとの声があがったため、再度挑戦し、1回跳ぶことができた。長岡先生から全員が考えて工夫できていたことがよかったと伝えた。

4. まとめ 等



- ・座学の時間では運動の時間の振り返りと長岡先生がオリンピックに出場した経験等を紹介するので、オリンピックについて学んでみようと呼びかけ、運動を終了。



■授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認 等



- ・座学の時間ではオリンピックを身近に感じて欲しいと目的を伝え、授業を開始。
- ・トリノオリンピックの開会式や競技の映像を用いてボブスレー競技を紹介。

2. オリンピックの価値を伝える 等



- ・クーベルタンが近代オリンピックに込めた3つの思い（オリンピックバリュー）について、エクセレンスはベストを尽くすこと、フレンドシップは友情・相手を理解すること、リスペクトはルールを守る・仲間を大切にすること、と説明。
- ・オリンピックバリューはスポーツにだけ当てはまるのではなく、日常生活の中で誰もが経験していることで、特別なものではないと伝えた。



3. グループワーク 等



発問①：運動の時間に八の字跳びの課題を与えられてどう感じたか。

発表①：久しぶりの八の字跳びだったので不安に思った、チームで協力して一番になろうと頑張ろうと思った、ベストを尽くすようにした

発問②：八の字跳びの結果に対してどう感じたか。

発表②：1回目よりも2・3回目に多く跳べて嬉しかった、一番になれず悔しかった、1位のグループの工夫したところを知りたい

4. まとめ 等



・運動の時間にも実践できていた通り、オリンピックバリューは普段から感じられる身近なものだと改めて伝えた。

・トリノオリンピックのゴール時の写真を見せ、オリンピックには選手だけでなく、コーチ、審判、ボランティア、観客等多くの人が参加している。東京2020大会にも選手やボランティア等としてぜひ参加してほしいと伝えて、授業を終えた。

- 期 日 : 平成27年10月20日 (火)
- 場 所 : 川越市立霞ヶ関西中学校
- ク ラ ス : 2年2組 (39名)、2年3組 (34名)
- オリンピアン : 三科 真澄 先生 (ソフトボール)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認 等



- ・三科先生から自己紹介とソフトボール競技について簡単に説明。
- ・必ず大きな声で返事をして意思表示をすること、運動の時間では勝負にこだわることを約束し、勝つためにはコミュニケーションをとることが重要だと伝えた。

2. 準備体操 等



- ・両手間隔に広がって準備体操を実施。
- ・1人1球ソフトボールを持ち、ボールを真上に投げてキャッチすることを基本として、キャッチする前に笛の鳴った回数手を叩いたり、その場で回転する動きを追加。

3. 主運動 等



- ・6班に分かれて、2人1組でボールをパスしながら、20mほどの間隔で置かれたマーカの間を走って往復するリレーを行う。
- ・三科先生からはもっと相手を思いやってパスすること、相手の名前を呼んだり、アイコンタクトしたり、コミュニケーションをとることをアドバイスし、相手のことを考えるのはスポーツに限らず、日常生活の中でも大切なことであると伝えた。

4. まとめ 等



- ・野球部に所属する生徒や顧問の先生とキャッチボールを実演。
- ・座学の時間では、運動の時間に三科先生が伝えたかったことや、みんなが感じたことについて考えよう、と話し運動の時間を終えた。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介（映像）と授業の目的を確認 等



・北京大会で金メダルを獲得した時の映像を流し、ソフトボール競技やチームメイト、当時の心境について話す。

2. オリンピックの価値を伝える 等



・オリンピックには文化や国籍の異なる人々が、相手を尊重し、認め合い、フェアプレー精神で戦い、ベストを尽くしてがんばる心をもって集まっており、よりよい平和な世界をつくるためにオリンピックは開催されていると説明。
 ・オリンピックバリューについてエクセレンスは「ベストを尽くしてがんばる心、ひとつのことを成し遂げること」、フレンドシップは「友情、仲間、相手を理解すること」、リスペクトは「尊敬、感謝の心、フェアプレーの精神」と説明。オリンピックバリューはオリンピックだけの特別なものではなく、学校生活や勉強中でも自然と実践できていることだと伝える。



3. グループワーク 等



発問：クラスをより良くするためにはどうしたらいいか。

発表：団結して協力し合う、相手を思いやってコミュニケーションをとる、ポジティブに自分らしく取り組む、失敗しても相手を責めない、合唱コンクールでは
恥ずかしがらずに大きな声で歌う

4. まとめ 等



- ・北京大会決勝の相手だったアメリカ代表チームの姿勢を見て、試合に負けても相手を尊重する大切さを学んだと話す。
- ・オリンピックバリューはオリンピックだけの特別なものではなく身近な生活の中にもあると意識することでより良い一歩が踏み出せると話し、気持ちの持ち方次第で自分は変わるので「自分是可以する」という強い意志をもって諦めずに取り組んでほしいと伝え、授業を終えた。



■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組





■ 集 合 写 真

2年3組





■ 記念品贈呈



■ 証明書贈呈

